

熊本中央病院 広報誌

くまちゅう NAVI Vol.15



国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 広報委員会編集発行 平成 29 年 10 月

乳がん遺伝子検査（リスク診断）



県内
初導入

『Curebest™ 95GC Breast』

熊本中央病院 乳腺・内分泌外科部長代行
むらかみ けいいち
村上 敬一

当院では平成29年9月より、「Curebest™ 95GC Breast（キュアベスト95ジーシープレスト）」による乳がんのリスク診断が実施できるようになりました。

乳がん全体の7～8割を占める、女性ホルモンの影響を受けるタイプの乳がん（ER陽性乳がん）は女性ホルモンの働きを抑制するような治療（内分泌療法）との相性が良く、一般に抗がん剤による治療（化学療法）との相性がそれほど良くありません。しかし、この中の一部に、増殖能が高かったり、再発するリスクが高かったりする乳がんが存在し、内分泌療法のみではなく、化学療法を追加することが望ましいと考えられています。

通常は4種類の免疫染色によって判断される「分子生物学的特徴/バイオロジー」を手掛かりに判断されていますが、これだけで、「増殖能が高かったり、再発するリスクが高かったりする乳がん」を探し出すことは難しく、欧米を中心に大多数の国々では、腫瘍の遺伝子を調べて再発リスクを判定するOncotypeDXやMammaPrintなどの多遺伝子アッセイが利用されています。残念ながら、わが国で施行する場合は保険適用外となっており、50万円ほどの自費診療となるため、日常診療ではなかなか利用できません。また、海外での特許などの問題で、これに関わる臨床研究も国内では行いづらい状況が続いており、研究面でもわが国はおくれをとっているような状態です。

こうした状況に対し、大阪大学を中心に「Curebest™ 95GC Breast」による乳がんのリスク診断がジャパンブランドとして開発されました。海外のものに比べて、臨床データの利用に大きな制限がかけられず研究にも応用しやすいうえ、費用面においても20万円(+税)と半額以下で利用可能です。

当院では県内では初めてとなる導入に踏み切り、臨床で実施できるようになりました。ER陽性でリンパ節転移が陰性の乳がんに対してこの検査を実施することにより「化学療法が必要かどうか」を調べることができます。

Curebest™ 95GC Breast の詳細については下記サイトもご参照下さい。

<http://www.curebest.jp/>

ご質問などありましたら、お気軽にご相談ください。

